

92 RIS(放射線情報システム)を利用したフィルム管理システムの構築 — 第一報 —

Construction of a Film Management System with Radiology Information System: First Report

昭和大学病院放射線部

○ 岩井 譜憲
(Tsugunori Iwai)

新田 勝
(Masaru Nitta)

中澤 靖夫
(Yasuo Nakazawa)

【目的】当院では97年5月新病院への移設を機に、1患者1カルテ1ジャケットに統一した。その際、診察・検査などで動くジャケットのアリバイ管理を徹底するために放射線部主体でフィルム管理システムを構築することとなった。そこで我々は同時に導入される放射線情報システム(以後、RIS)をベースにフィルム管理システムを構築したので報告する。

【基本方針】当院でのフィルム管理の基本方針は、(1)小袋単位での検査履歴管理を行う。(2)貸出は大袋単位で行い、小袋単位では行わない。(3)診療録管理室(フィルム管理室)での収納登録後から管理対象とする。(4)返却登録時に小袋数の確認、未読影検査の有無の確認を行う、とした。

【方法】フィルム管理システムを構築するに当たり、(1)撮影システムとリンクし情報を共有している。(2)レポートメーカーとリンクし情報を共有している。(3)患者IDはバーコードでもキーボード入力でも可能である。(4)フィルムジャケットの貸出履歴を5つまで持つことができる。(5)貸出先を99カ所設定できる、を基本にし開発した。

【システム概要】Fig.1にシステム概要図を示す。HIS、RIS、レポートシステムをリンクさせて情報の伝達、共有を行っている。フィルム管理システムはRISの中の一機能として構築してあり、検査情報データベースを新たに設けた。フィルム管理に用いる検査情報データベースは約10年分のデータを蓄積できる容量を有している。

【結果】Fig.2, 3にフィルム管理システムの画面を示す。表示項目は区分、大袋/小袋番号、患者カナ名、検査年月日、検査種、撮影項目、読影区分、現在状況、貸出予約、履歴となっている。検索条件は患者番号もしくは、検査年月日、依頼科、検査種、撮影項目の複合が利用できるようになっている。区分は、「大」となっているのは大袋を意味し、それ以外は検査ごとの小袋を意味している。大袋番号は患者ID+分冊番号で出来ており、小袋番号は検査一つ一つを区別する番号で、登録を行った端末番号+通し番号で9桁で出来ている。現在状況には、現在大袋のある場所を示してあり、SAT-2がジャケット倉庫を意味している。現在状況はあらかじめ登録された貸出先98カ所と返却先1カ所の合計99カ所の中から選択できるようになっている。また、フリーコメントも入力できるようになっているので、貸出先に科名を登録し、コメントに医師名を入力することで、何科の何先生に貸し出したかを登録することができるようになっている。登録を行った日および登録を行った端末名も記録しているので、おかしな登録があった場合などに、追跡調査の手がかりとすることができる。また返却登録時に読影区分が未読影があった場合、倉庫へ行かず、読影室へ送られ読影するようにしている。履歴は貸し出してあった場所を5つ前まで記録している。これはあるはずの小袋が紛失していた場合や、登録先にジャケットがないときなど、調査の手がかりに出来るようにした。

【結論】フィルム管理システムを構築したことにより、病院中のフィルムのアリバイを把握することができ、1患者1ジャケットでの運用をスムーズに出来るようになった。また、検査ごとに収納の有無、読影の有無が把握できるためきめ細かなフィルム管理が行えるようになった。

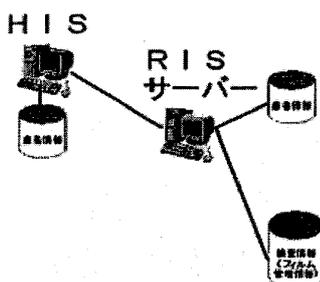


Fig.1 システム概要図

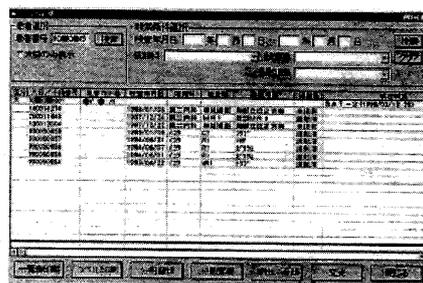


Fig.2 フィルム管理システムの画面 1

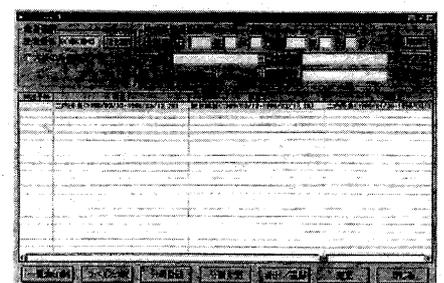


Fig.3 フィルム管理システムの画面 2